国立大学法人
大阪教育大学

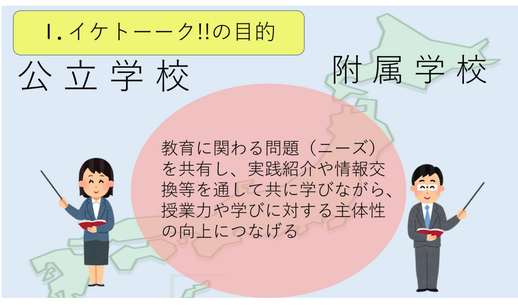
附属池田中学校
教諭　藤井　大介

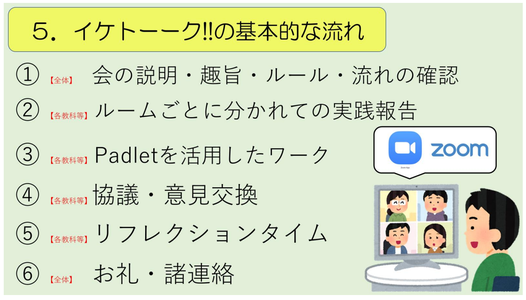
イケトーーク

～思考力・判断力・表現力を育成するためのパフォーマンス課題と評価～

①目的

教員の学びに対する主体性や授業力の向上を図り、公立学校の先生たちが、すぐに授業に活かせるヒントを互いに交換できる場として、「イケトーーク」を毎年設けている。イケトークでは、授業に使えるネタの交流、さらに他校の先生たちのとの交流の場としての役割を果たしながら、多くの先生たちが、イケトーークで学んだことを授業に直接反映させることができるため、実践への応用度が非常に高いこともイケトーークの有効な点の一つとなっている。

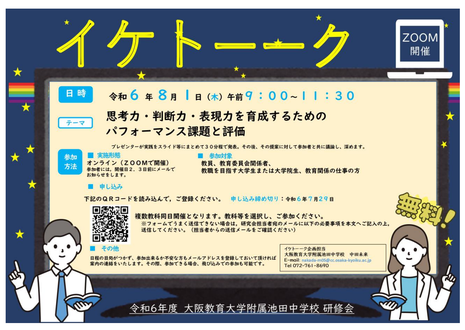




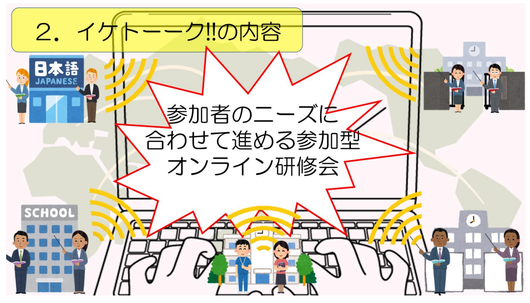
②対象・実施方法

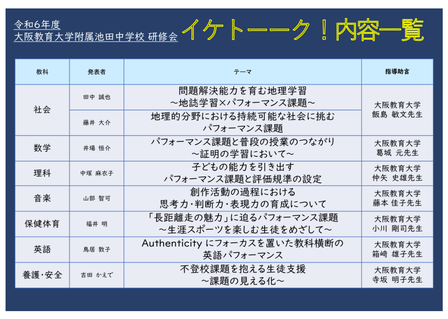
対象

教員、教育委員会関係者、教職を目指す大学生または大学院生、教育関係の仕事の方



オンライン開催





教科	発表者	テーマ	指導助言
社会	田中 誠也	問題解決能力を育む地理学習 ～地誌学習×パフォーマンス課題～	大阪教育大学 飯島 敏文先生
	藤井 大介	地理的分野における持続可能な社会に挑む パフォーマンス課題	
数学	井場 恒介	パフォーマンス課題と普段の授業のつながり ～証明の学習において～	大阪教育大学 葛城 元先生
理科	中塚 麻衣子	子どもの能力を引き出す パフォーマンス課題と評価規準の設定	大阪教育大学 仲矢 史雄先生
音楽	山部 智可	創作活動の過程における 思考力・判断力・表現力の育成について	大阪教育大学 藤本 佳子先生
保健体育	福井 明	「長距離走の魅力」に迫るパフォーマンス課題 ～生涯スポーツを楽しむ生徒をめざして～	大阪教育大学 小川 剛司先生
英語	島居 敦子	Authenticity にフォーカスを置いた教科横断の 英語パフォーマンス	大阪教育大学 福崎 雄子先生
養護・安全	吉田 かえで	不登校課題を抱える生徒支援 ～課題の見える化～	大阪教育大学 寺坂 明子先生

（令和6年度実施の案内及び内容）

オンライン開催の是非（参加者のふりかえりより）
〇有用な点
・最大の魅力は気軽さ。
　参加者は自宅や職場から簡単にアクセスでき、移動する手間が省けます。
・他の業務と並行して参加することが可能です。
・全国津々浦々、多様な意見が耳に入る。
　どこの誰とでも積極的な交流できる。
〇課題点
・技術的な操作に戸惑う
・Padletを用いた質疑応答は手軽ですが、討議が短く、深い議論を欠いてしまう可能性があります。
・対面形式の方が発言しやすく、自己の意見を深く伝えることができる

それぞれの形式には明確なメリットとデメリットがあり、それらをうまく取り入れることが今後の課題。

③よりよき「イケトーーク」のために

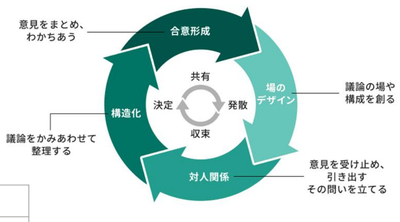
下記の５つの目標に重きを置き、ホスト校として参加者の満足度を上げるために様々な研修や準備を実施

〇　学びの充実度を上げるために
〇　実践への応用度を高めるために
〇　授業力向上へ寄与するために
〇　よりよき交流の場を提供するために
〇　情報共有の場としての効果を高めるために

①　イケトーーク研修（R6.5.3

②ファシリテート実践講座
・全員でイケトーークの目的・目標を共通認識
・ファシリテート研修
　→活発な意見交換の場とするために
・Padlet講座

③交流の場を広げる働きかけ

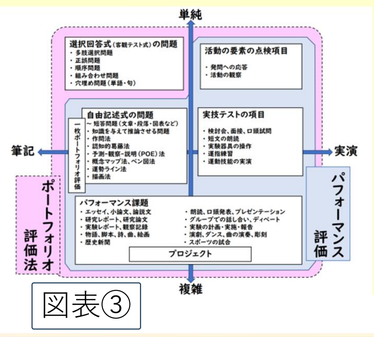


	1	2	3	4
５人以上参加してもらうことができた教員数が	１－５人	６－１０人	１１－１５人	１６人以上

④パフォーマンス課題と評価

パフォーマンス課題（図表①）とは、各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力，判断力，表現力等を身につけているかを評価するもの。そのために、逆向き設計に基づき修了時をイメージしながら、GRASPS（図表②）を活用し、ルーブリック（図表③）に基づき評価を実施している。さらにGRASPSを用いることで、「リアルな課題になっているか」、「測りたい学力に対応しているか」、「児童・生徒の身に迫り、やる気を起こさせるような課題か」、「児童・生徒の手に届く課題か」ということを評価者も考えることができる。

図表①



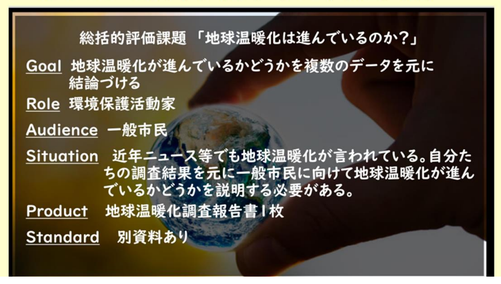
図表②

パフォーマンス評価課題の設定の仕方

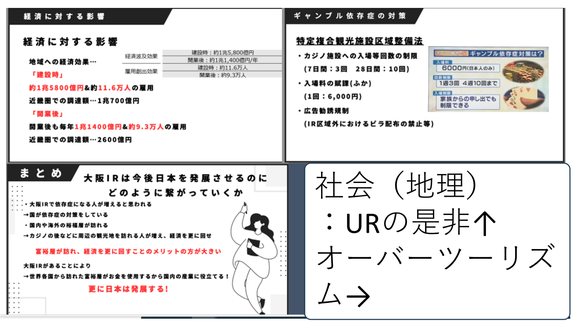
・G（ゴール）：あなたの課題は＿＿＿＿＿ です。
　ゴールは＿＿＿＿＿することです
・R（役割）　：あなたは，＿＿＿＿＿です。
・A（受け手）：あなたの依頼人は，＿＿＿＿＿です。
　対象となる相手は，＿＿＿＿＿です。
・S（状況）：　あなたは ＿＿＿＿＿ という状況にいます。
・P（完成品）：あなたは，＿＿＿するために ＿＿＿＿＿を創作します。
・S（成功を評価する規準）：
　あなたの実演は＿＿＿＿＿である必要があります。
　によって判断されます。

図表③

GRASPS例（本校中学2年数学科）

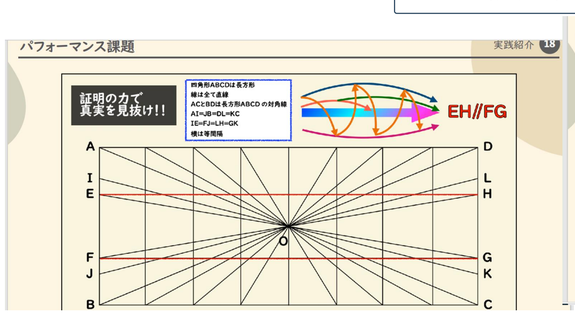


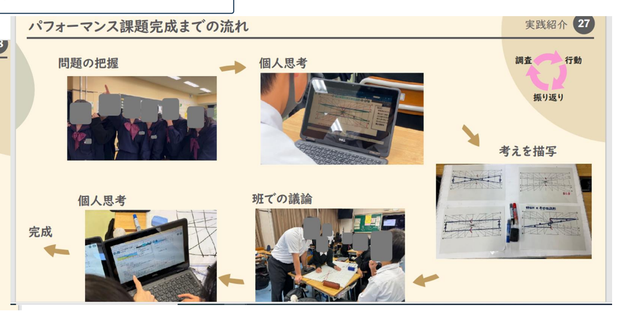
⑤　パフォーマンス課題



社会（地理）
：URの是非↑
オーバーツーリズム→

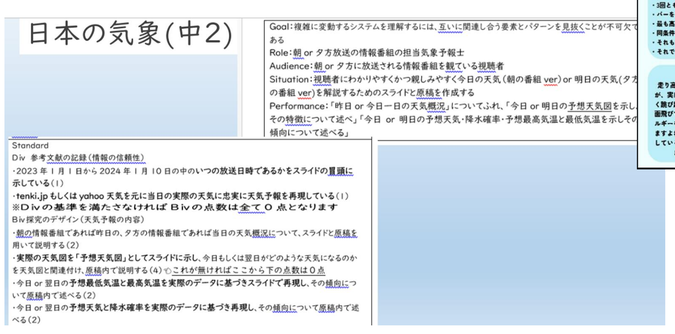
数学（図形）：錯視の証明





体育：競技の紹介記事

理科：お天気予報原稿作成



⑥ふりかえり

	1	2	3	4
学習充実度 来年度への期待	アンケート項目③⑧における肯定的回答が 0－25%	25－50%	51－79%	(結果③94.9%) (結果⑧91.9%) 80－100%
実践への応用度 授業力への寄与	アンケート項目④⑤における肯定的回答が 0－25%	25－50%	51－79%	(結果④93.9%) (結果⑤91.9%) 80－100%
交流の場の提供	アンケート質問⑥における肯定的回答が 0－25%	25－50%	(結果⑥71.7%) 51－79%	80－100%
情報共有の効果	アンケート質問⑦における肯定的回答が 0－25%	25－50%	51－79%	(結果⑦94.9%) 80－100%
オンライン実施の意義	アンケート質問⑨における肯定的回答が 0－25%	25－50%	51－79%	(結果⑨85.9%) 80－100%
本校教員の交流への積極的アクション	参加への呼びかけを10人以上行った教員が 1－5人	(6名) 6－10人	11－15人	16人以上
本校教員の交流へのアクションの成果	参加を呼びかけ，実際に5人以上参加してもらうことができた教員が (3名) 1－5人	6－10人	11－15人	16人以上

学びの充実度、実践への応用、授業力の向上、情報共有については９０％以上が肯定的回答となり、目標を達成できた。オンラインの意義については、肯定的意見が８５％以上あったが、オンラインの欠点として操作の難しさや、気軽に話すことができないという点が挙げられており、改善する必要がある。講習の場の提供は本校教員対象アンケートでは８５％を超える教員が肯定的に回答したが、参加者については７割にとどまった。次年度は発表の時間を１０分減らし、交流の時間とすることで参加者同士の交流の時間を増やすことにする。本校教員からのアクションは昨年度より多くなっているものの引き続き課題となった。イケトーークを、本教教員との繋がりを作る機会とすることで声をかけることのできる教員を増やせるサイクルを作っていきたい。